

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立横川中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年	国語207人	社会209人	数学207人
	理科208人	英語207人	

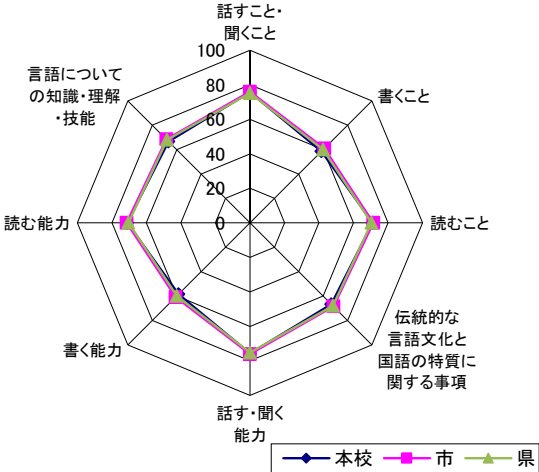
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」, 「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	75.7	76.0	75.2
	書くこと	58.6	60.9	59.9
	読むこと	71.1	71.4	70.4
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	66.7	68.5	68.0
観点	話す・聞く能力	75.7	76.0	75.2
	書く能力	58.6	60.9	59.9
	読む能力	71.1	71.4	70.4
	言語についての知識・理解・技能	66.7	68.5	68.0



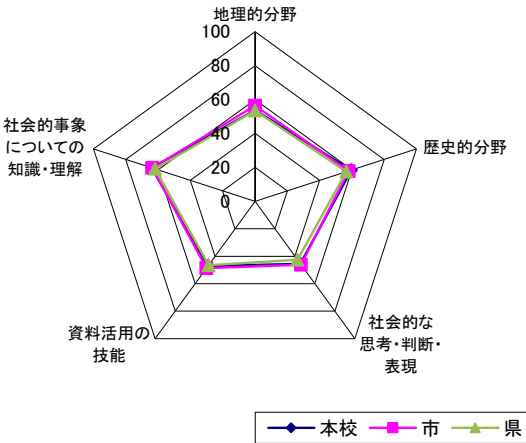
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○県の平均より、0.5%高かった。分かりやすく伝えるために話の構成を考える問題の正答率が高かった。 ●資料の効果的な活用方法について考える問題の正答率が低かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・話を聞いて、自分の考えとの共通点と相違点を整理することは理解できるが、資料の効果的な活用方法について考える問題の正答率が低かった。資料の要約や、要点を捉えることが今後の課題と考えられるため、聞き取りの単元や、聞き取りのテストを通して要点を捉え、文章にしてまとめる課題に重点的に取り組ませる。
書くこと	○メモを基に、活動報告書にあてはまる言葉を書く問題の正答率は県や市の平均を上回った。 ●話し合いの内容を参考に、提案することをまとめて書く問題と正答率は低く、また問題の無回答率も高かった。	・記述式の問題で無回答率が高かった。自分で考えて言葉にすることや、多少の文を書くことに対して抵抗がある生徒が多いことが課題として挙げられる。授業中に空欄へ当てはまることを補う問題を用意したりするなど、書く習慣づけができるような指導を行っていく。
読むこと	○県の平均より、0.7%高かった。特徴的な表現を踏まえて物語を読む問題の正答率は県や市の平均を上回った。 ●登場人物についての描写を捉えて読む問題の正答率が低かった。	・登場人物の描写を捉える問題の正答率が低かった。条件が複数あるものを根気強く解かせられるよう、授業中に複数の条件がある課題に取り組ませていく。また、話すこと・聞くことと関連させ、要点を捉える指導も読む教材で取り組ませていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字を読む問題の正答率が高かった。 ●熟語の組み立てを答える問題の正答率が低く、漢字の無回答率も高かった。	・1年生で学習している文節や単語、漢字の読み書きや歴史的仮名遣いなどを授業中、折にふれて復習させる。2学年では用言の活用など、更に文法での学習内容が増えるため、その都度復習をしながら指導していく。繰り返し行うことを通して定着させていく。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	53.7	56.4	53.5
	歴史的分野	59.6	58.0	56.6
	社会的な思考・判断・表現	45.5	46.1	42.5
	資料活用・技能	47.1	48.6	46.5
	社会的事象についての知識・理解	63.9	63.6	61.9



★指導の工夫と改善

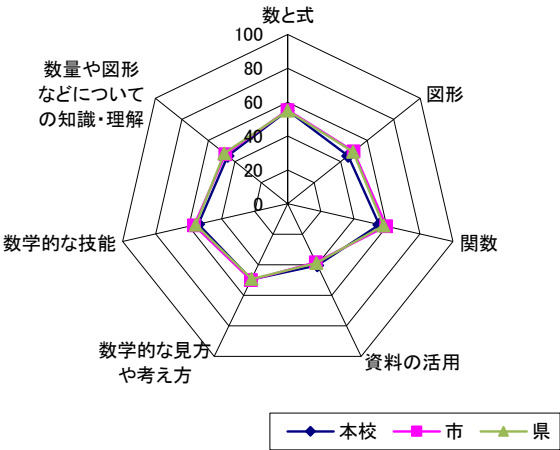
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	平成29年4月18日（火）	今後の指導の重点
地理的分野	○ 内容「世界各地の人々の生活と環境」および「世界の諸地域」においては、県平均を上回っている。 ○ 観点「社会的事象についての知識・理解」が、県平均・市平均を上回っており良好な結果となっている。 ● 分類・区分別正答率が、「世界の地域構成」において市平均を6パーセント下回っている。 ● 観点「社会的な思考・判断・表現」および「資料活用・技能」が市平均を下回っており、正答率が50%を切っている。	・ 観点「社会的な思考・判断・表現」および「資料活用・技能」を高めるため、授業においてグラフや地図などを読み取る訓練を反復していく。
歴史的分野	○ すべての内容において、県平均・市平均を上回っている。 ○ 観点「社会的事象についての知識・理解」が、県平均・市平均を上回っており良好な結果となっている。 ● 観点「社会的な思考・判断・表現」および「資料活用・技能」が市平均を下回っており、正答率が50%を切っている。	・ おおむね良好な状態であり、さらに教材等を工夫して観点「社会的な思考・判断・表現」を伸ばしていく。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	55.1	55.4	55.0
	図形	45.5	49.8	49.2
	関数	55.4	59.6	58.0
	資料の活用	40.3	38.3	38.9
観点	数学的な見方・考え方	49.6	50.0	49.3
	数学的な技能	54.2	56.7	55.7
	数量や図形などについての知識・理解	45.4	47.0	47.9



★指導の工夫と改善

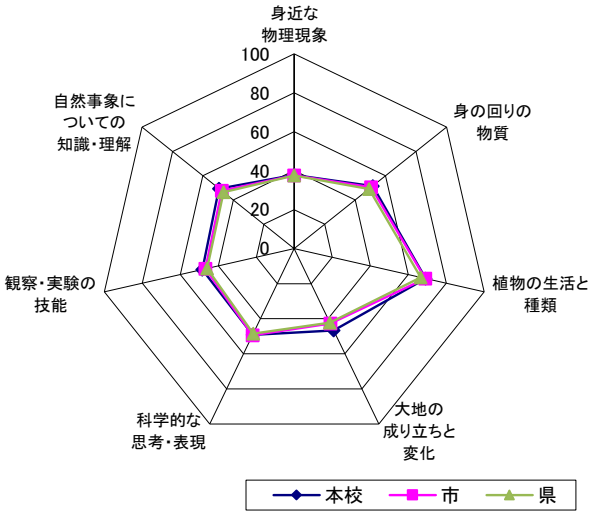
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○正負の数の計算では市の平均を4.1%、一次式の計算では市の平均を2.2%上回るなど、基本的な計算は身につけている。また、基石の数を求める問題やまた求められる理由を説明する問題ではそれぞれ市の平均を5.9%、2.2%上回っている。 ●一次方程式を解く問題では、整数の問題は市の平均を3.2%、分数を含む問題は7.1%下回っており	・一次方程式の解き方が身につけていない生徒が多いので、授業の始めに積極的に小テストや振り返りを行い、一次方程式の解き方を身に付けさせる。
図形	○「おおぎ形の面積」や「体積比」の設問で、市平均と同等のポイントである。 ●正答率は約5割で、市・県平均より5ポイント下回っている。 ●空間図形のねじれの位置にある辺を求める問題や、直方体の展開図の応用問題では、正答率そのものが約6割となっているが、正答率が市平均より8ポイント下回っている。	・「立体の位置」「回転体の見取り図」などの図形についての知識・理解や「おおぎ形の面積」「角度を求める」などの数学的な技能は学習内容が十分に定着されている。しかし、図形について正しい説明文を選択する問題では説明内容に対する数学的な見方や考え方が不十分であった。グループ活動を通して、他の人の意見を聞いて、それを学び合い、理解する力を育てていく。
関数	○グラフから、水の深さを表す矢印を選ぶ問題は、県平均より0.9ポイント上回った。 ●比例のグラフから式を求める問題、面積が一定の長方形の縦と横の長さの関係を式に表す問題は、県・市平均より大きく下回った。	・基礎的・基本的な技能は毎時間の振り返りを実施し定着させる。 ・表・式・グラフを関連させる技能を身に付け、活用の問題では関連させて考えさせる力も身に付けさせる。
資料の活用	○度数分布表から中央値が含まれる階級を答える問題は、県平均より4.7ポイント上回った。また、度数分布表からある階級の相対度数を求める問題は、県平均より1.9ポイント上回った。 ●特に度数分布表からある階級の相対度数を求める問題の無回答率は、県・市平均より下回った問題はないものの、学級別に見ると、学級ごとの差が大	・入試に出題されるにもかかわらず、おろそかにしがちな単元であるため、授業で積極的に小テストや振り返りを行い、復習を徹底させる。 ・表を読み取り、表現する力を身に付けさせるために、授業でグループ学習で話し合ったり、自分の言葉で発表したりする活動を取り入れていく。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	37.8	37.6	37.5
	身の回りの物質	51.5	50.5	49.1
	植物の生活と種類	69.2	69.0	66.6
	大地の成り立ちと変化	46.7	42.7	42.2
観点	科学的な思考・表現	49.2	49.4	48.5
	観察・実験の技能	48.4	46.8	45.9
	自然事象についての知識・理解	49.4	47.6	46.5



★指導の工夫と改善

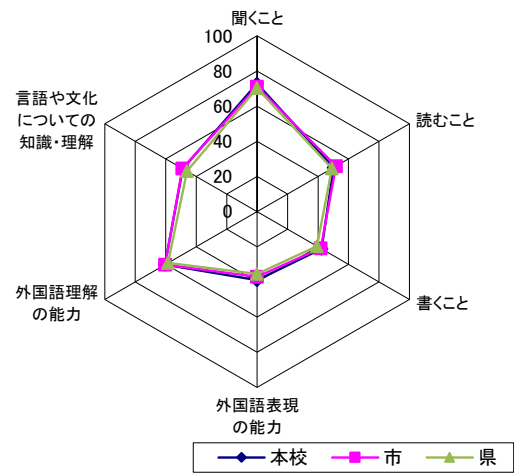
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○正答率は、市や県よりも上回っている。 ●音の波形の説明などの思考表現問題でポイントが低い。 ●グラフや表から、おもりの重さを求める問題や、圧力を求める問題の正答率が低い。	・中学生の物理嫌いをなくしていくためにも、身近な実験例を見せてイメージさせることで、基本の定着をさせていく。 ・グラフの読み取りや作図を苦手としている生徒が多いので、丁寧に問題演習をさせていく。
身の回りの物質	○正答率は、市や県よりも上回っている。メスシリンダーの使い方や粒子の運動のようすについての正答率が高い。 ●密度や濃度の計算が苦手な生徒が多かった。	・濃度や密度の計算は、公式の暗記だけでなく単位で計算する考え方を身に付けさせ、身近な実験例を見せてイメージさせることを授業で実践していく。 ・密度を基に同じ物質を推測する問題などは、グラフを利用して解けるようにさせていく。
植物の生活と種類	○正答率は、市や県よりも上回っている。植物のなかまの名称や、双子葉類における葉脈、根、茎の断面の特徴についての正答率が高かった。 ●光合成に日光が必要かを調べる問題の正答率が低かった。	・顕微鏡の使い方はよくできでおり、名称などをきちんと覚えることができるよう繰り返し指導していく。 ・実験の目的をより明確にすることにより、探求心を持って実験に取り組めるよう指導していく。また、ワークシートなどを工夫して、振り返りを行わせ、考察する力を高めていく。
大地の成り立ちと変化	○正答率は、市や県よりも上回っている。特に、重要語句を答える問題の正答率が高かった。 ●火成岩のでき方やつくりを理解していない生徒が見られる。	・基本的な重要語句については、よく覚えられているので、今後も丁寧な説明と、反復学習を行っていく。 ・鉱物標本などを活用して、実物の観察に時間をかけていく。 ・自然の様々な現象について、考える、推測する時間を設け、その力が身につくような指導を工夫する。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	72.8	71.1	70.2
	読むこと	50.2	51.8	49.1
	書くこと	42.3	41.8	39.4
観点	外国語表現の能力	39.0	37.1	35.5
	外国語理解の能力	60.5	60.4	58.5
	言語や文化についての知識・理解	48.8	49.0	46.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○県と市を上回っている。イラストを用いた問題では、情報をイメージしやすいのか正答率は高めている。 ●聞きとる事柄が複雑になると正答率は低くなっている。 まとものある英語の聞き取り、英語の知識を問うような問題は正答率が低い。	・普段から英語に耳が慣れておくことが大切である。また、英単語やイディオムをいかに知っているか、英語らしい発音をきちんと聞き取れるか、ということも重要であるため、それらの力を高める指導を工夫していくことが正答率アップにつながる。
読むこと	○市よりは下回ったが、県を上回っている。対話文読み取りでは、おおむね文章の内容を理解できている。 ●案内の表からゲストと写真が撮れる時間を読み取る問題では、市よりも7.3%も下回っている。まとものある英文から、適切な情報を読み取ることが苦手。	・ある程度まとまった文章を読む練習を多く取り入れる。制限時間を設けて読ませるなど工夫をし、読解の力をつけさせる。また、教科書の音読を積極的に行い、読み取る力とともに単語を正確に読める力も向上させていく。
書くこと	○県・市ともに上回っている。Whichを用いた語順並べは、県よりも5%も高くなっている。 ●書くことは全般的に苦手のような。特に内容のある3文以上の英文を書く問題では、正答率が17.4%と非常に低くなっている。	・既習の表現を確認しながら、英作文で有効な表現を教師側が提示し、3文程度の英文を書く練習を取り入れる。また、英語の語順をしっかりと理解できるよう指導していく。小さな頑張りを認め、自信をもって書けるようきめ細かな支援も心がけていく。

宇都宮市立横川中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「早寝早起きを心がけている」という質問に対し、県平均より9.8%宇都宮市の平均より8.2%高い回答で、生活のリズムが整っている。

●「学校の宿題はやりたくないようだ」という質問に対しては、県平均より11.6%、市平均より9.4%と下回る回答であった。「宿題」というものに前向きに考えていない生徒が他よりも多かった。学習への習慣づけをし、学習に対して前向きになるような課題を工夫していく。

○「本時の目標」の提示の肯定的回答が93.3%と徹底することができている。

○「誰に対しても思いやの心をもって接している」の肯定的回答が、92.8%で、県市平均より上回っている。横川地域学校園の道徳の重点項目が「思いやり」であり、道徳の校内授業研究会でも力を入れて取り組んできた。

●「友だちの前で自分の考えを発表することは得意である」の肯定的回答が38.9%である。発表時によいところはほめるなど、自信がもてるような指導・助言を行っていく。

●社会や地域の出来事に関心のある生徒の割合が市よりも2.9%下回っている。ニュースに関心のある人となない人の差が大きい。学力とも関係があるが、興味・関心を持たせるよう各教科や学活で話題にする機会を増やしたい。

●わからないことを先生に聞くことに抵抗のある生徒が見られる。質問しやすい雰囲気づくりを心がけ、学力向上につなげていく。

○「家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」生徒の割合が県を5.3%、市を1.1%上回っている。このことから、自主学習に取り組んでいる生徒が市や県に比べて多いことがわかる。

●国社数理英の教科の問題を解く時間が十分だった生徒が、各教科で県や市より8～10%下回っている。また、家で学校の授業の復習をしている生徒は、県を5.3%、市を4.2%下回っている。そのため、国数英の教科で、毎時間の授業の復習ができるような内容の宿題を積極的にだすなど、生徒が家庭で授業の復習が行えるように工夫をする。

○学校の授業以外に、1日あたり1時間から3時間勉強をする生徒の割合が、月曜日から金曜日までは県を7.0%、市を8.7%上回っている。このことから、自主学習の時間を確保している生徒が市や県に比べて多いことがわかる。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的事項の定着を図る「わかる授業」の展開	各教科において、基礎的・基本的事項の定着のため、小テストなどによる反復学習を行っている。また、授業ではTTや習熟度別学習を取り入れ、放課後学習相談も年25回実施している。	理科・英語は、すべての領域・観点において、県市平均を上回っている。しかし、国語・数学は、県市平均を下回っている領域・分野が多い。
全教科における思考力・判断力・表現力を伸ばす言語活動の充実	全教科において、「見せ合い授業」などを行い、学年や各教科各単元に応じて、言語活動の充実のための授業を展開している。	「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定的回答が、県市平均を下回っている。
家庭学習の充実	各学年で、自主学習ノートを使用して、自主学習を毎日行うように指導を行っている。また、学年により基礎学力テストを行うための課題を提示し、家庭学習で取り組むよう指導している。	「家で学校の宿題をしている」の肯定的回答が、95.2%と高く、自主学習を行う習慣が身に付いている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
家庭で自主学習を毎日行うことはできていると考えられるが、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」68.8%や「学校の宿題はやりたくない内容だ」32.5%と肯定的回答が低くなっている。	宿題・自主学習の内容の改善	各教科で、どうして各内容を学習する必要があるのかを説明した上で、提出された課題から生徒のつまづいている点を授業で取り上げ、考え方や取り組み方をフィードバックしたり、自己有能感を高めるために小テスト(授業の内容を理解すれば解けるレベル)を実施したりする。
各教科で効果的な言語活動が充実するような単元構成を工夫しているが、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」68.7%や「友だちの前で自分の考えや意見を発表することは得意である」38.9%と肯定的回答が低い。	「書くこと」「話すこと」の活動の工夫	毎時間行っている振り返りの時間などに、その授業でできるようになったことやわかりにくかったことを文章化させて発表する。また、スタンダードダイアリーを利用して、文章を書く機会を増やす。意図的に授業中に1対1や小集団で発表する機会を増やし、発言することにも慣れさせる。